



特定非営利活動法人

チャレンジ企業支援隊 会報

Global Management Supporting Partners (GMS)

会報 Vol. 10 平成 22 年 1 月 28 日
発行：理事長 山崎健一郎
TEL & FAX 0742-41-7839
編集（広報担当）：副理事長 馬場英彦
TEL & FAX 0743-75-1685
E-Mail bamba@m4.kcn.ne.jp
URL: www.npo-gms.com

巻頭言

（理事長 山崎健一郎）

年頭にあたり、昨年中に皆様方から賜りましたご支援とご協力に対し、心から御礼を申し上げます。

昨年 5 月に、成田理事長の後を受け、理事長をお引き受けし、早 9 ヶ月が経過しようとしています。この間、隔月毎に開催された「理事会」と「定例会」で時々所信を申し上げてきました。その一つは、チャレンジ企業支援隊（GMS）の運営に当たっては、会員の皆様・理事・顧問の方々の衆知を集めて、活動の輪を拡げて行って欲しいと言う事です。

GMS の活動も年々広がって来ました。昨年 9 月には、関西における産業支援型 NPO 法人の 7 団体が発起人となり「関西産業活性協議会（KIAC）」が発足しました。協議会は「各団体が連携しそれぞれのネットワークを活かして、産業活動の支援を通じて、関西経済の活性化と日本経済の再生に貢献する」事を活動の理念とし、GMS の理念とも同一です。

今年は、「平城遷都 1300 年」を迎え、一年間多くの催事が予定されています。薬師寺管主の山田法胤さんは、この機会に「1300 年前の国造りの心意気を感じ、現代に生かしてほしい」と年頭の所感で述べておられます。

今こそ、GMS は、「社会貢献を基本精神とし、人的なネットワークと連携を大切にしながら、会員の経験・知識・専門技術を活かし、中小企業やベンチャー企業などの支援を通じて、経済社会の活性化と地域社会の健全な発展に寄与することを目指す」と言う運営理念を、全員が心意気に感じて、日々精進して行く事を念願しております。

今年も、引続き、社会経済環境は厳しさが予想されていますが、引続き、多くの関係諸団体・企業の皆様のご支援とご鞭撻をお願い申し上げ年頭のご挨拶とさせていただきます。

3 部会の 22 年度の取り組み

<マーケティング部会>

（部会長 副理事長 馬場英彦）



当部会では、デザイナー、フォトグラファー、企画・マーケティング専門家、デパート・流通部門責任者、経営コンサルタントなどで活躍しているメンバーが中核となって中小企業様の支援活動をしており、特に下記の 3 項目について重点的に取り組んでいます。

（１）定例マーケティング部会の開催

毎月第 1 木曜日を部会の定例会合日と定め、昨年末で 63 回目を開催させていただきました。ここでは中小企業様への専門的な支援活動の取り組み事例の紹介や、現在取り組み中の案件をそれぞれの専門的な立場から意見交換をしています。時にはミニ・セミナーのような形式で発表者を中心に案件の検討をしております。現在、経営課題をお持ちの中小企業様はもとより、初めての方も大歓迎です。

（２）産学連携による支援活動

大阪市立デザイン教育研究所の教授（会員）ならびにデザイン学生が中



心となって、中小企業様のパッケージデザインや商品コンセプトの提案を実施、若い感性とアイデアが支援先の企業様到大変歓迎されています。将来デザイン分野を目指す学生には、課題教習として実社会の中で役立つ仕事に挑戦できることは、就職活動の一貫としても大変貴重な機会となっています。

（３）社会起業家（コミュニティ・ビジネス）

への支援活動

デフレスパイラルの閉塞感漂う市場にあって、地域を中心にしたさまざまな社会問題を認識し、変革を起こすベンチャー企業の創造・組織化、経営のた

めのお手伝いや、福祉関連分野では障害者の方々の社会参加・ワーキングサポートへのお役立ち活動を支援しています。社会変化に伴う課題・地域のニーズに対応し、企業OBメンバーを中心に豊かな《ビジネススキル》を活かした幅広い支援活動は、GMSならではの特長として、今後大いに期待され、益々必要になってくると考えています。

<モノづくり部会>

(部会長 理事 中村 顕)



モノづくり部会では「モノづくり部会定例会」「GMS経営勉強交流塾」「モノづくりコンサルティング」の3本柱を軸とし、部会員をはじめより多くの会員及び他のNPO法人とも連携し、それぞれの活動を更に充実したものにして行きます。

(1)モノづくり部会定例会の開催

モノづくり部会員相互の情報交換と事業企画・事業課題検討及び親睦を兼ねて毎月開催しており、今年度は事例研究的なものも加えて行く予定です。

(2)GMS経営勉強交流塾の開催

昨年6月(第13回)より、モノづくり勉強交流塾を発展的にGMS経営勉強交流塾と名称を変えて、モノづくりのテーマ・課題だけでなく、経営全般に亘る課題をとりあげ、勉強交流するようにしています。昨年度は「松下幸之助の経営哲学」に学ぶことを中心に進めてきました。今年は、特に次の事を重点に取り組んで行きます。

マーケティング部会、HRM部会と連携し、テーマ設定を行う事により、名実ともにGMSとしての交流塾に進化させると共に、新たな参加企業の拡大を図り、より幅広く貢献できるようにしたい。(現在までの累計企業数40社→目標50社)

モノづくり&GMS経営勉強交流塾を2005年7月に開始して今年が5年になります。そこで5周年記念事業として、経済成長著しい中国を開催場所とした、3泊4日程度の中国調査勉強交流塾を企画・検討しています。

参加企業からの要望も依然として多いので継続して「松下幸之助の経営哲学」に学んでいきます。

(3)モノづくりコンサルティング

作業改善、生産管理・品質改善等工場の改善、技能伝承の支援、及びISO(9001&14001)に関する出前セミナーを行うとともに、今年は中国活用に関する出前セミナーも加えて、中小企業のモノづくり力と経営力の強化に貢献していきます。

<HRM部会>

(部会長 理事 中尾都史子)



HRM部会の活動は、部会発足以来、追手門学院大学の「キャリアデザイン論」講義が大半を占め、部会員はキャリアコンサルタントだけと言ってもよい現状にあります。そこで今年度、HRM部

会としては、活動の輪を拡げて行く事と新しいテーマに取り組んで行きたいと考えています。具体的には

(1)マーケティング部会・モノづくり部会と連携した活動を展開する。

(2)HRM部会員を増やして行く。

人材育成に関心のある会員の方の部会への参加をお願い致します。

(3)新しいテーマに取り組んで行きます。

厳しい雇用状況が続く可能性が高く、働く人々をめぐる状況は全く予断を許さない変化の真只中にあることを鑑み、働く人のキャリア教育やメンタルヘルスへの取り組みを促進すると共に勉強会を開催する。以上の3点を目標に活動してまいりたいと考えております。皆様のご協力をお願いします。

けいはんな学研都市精華地区まちづくり

協議会の事務局を引き受けて

(相談役 安田正一郎)

昨年8月27日、けいはんな学研都市の精華地域に立地する研究開発型企业20社が、けいはんなプラザにて設立総会を開催し、『けいはんな学研都市精華地区まちづくり協議会』が発足した。

発足の数ヶ月前、GMSでこの協議会事務局を引き受けて欲しいとの依頼を受け、当時協議会設立の事務局であった精華町役場、けいはんな学研都市推進機構・交流セン



ターおよび協議会の役員、理事の皆様と数度の打ち合わせを行った。この打ち合わせを通じて協議会の目的、考え方がGMSの理念に合致していたこと、役員の皆様が献身的に立ち上げに努力されていたことに感銘を受け、GMSとして事務局をお引き受けすることにした。

この協議会は、学研都市にふさわしい良好な地区環境を維持発展させること、会員相互の交流・親睦を図り知識・技術などの向上をめざすこと、技術交流や事業発展に資する連携を培うこと、地域社会および各企業の発展に寄与することを目的としている。

協議会の設立後は、これからの取り組みについてのアンケート調査、国立国会図書館見学、第2回全体会議の開催、事務局として全会員企業の訪問などを年末までに終了した。今後はこのアンケート、訪問調査をもとに、まちづくり協議会のホームページの作成、研修会の開催など、2年目の活動に向けて具体的な取り組みを進めるとともに、他のけいはんな協議会（5グループ）、自治会などと連携をとりながら良好なまちづくり推進に貢献して行きたい。

森庄銘木「磨き丸太」の販促支援

（理事 マーケティング副部長 辻谷禎弘）

「このままでは山は荒れ放題、山林業は未来を描きようがない」と開口一番、その熱烈な語り口に圧倒された。森庄銘木産業（株）森本定雄社長に初対面時のこと。「日本の家はこの風土で育った国内産の木を使って頑丈に安く建てるべき」と持論を披瀝——とはいえ、建築業界は厳しい不況嵐が吹き荒れ、中でも純和風住宅の着工数は減少している。

しかし、森本社長は意気軒昂だ。自慢の技術力で“より確かな良質材を安定供給できる「磨き丸太」の独自製法”を開発、その有望性が高く評価され地域産業資源活用事業に認定、特別支援を受けた。

そこで一段と販促活動に注力していく為、宇陀商工会様のご紹介でGMSにご依頼があった。

7月31日、GMSは5名のメンバーでお伺いし、森本社長の熱い想い・逞しい事業感を伺った。伝統と技術力では吉野山林業界屈指の「森庄銘木」だが新市場開発を進める為のデザインイメージは全く確立されていない。ご依頼の内容は、チラシや展示会用パネル、会社案内等のデザインということであっ

たが、まずは現状の問題点から解決案までを幅広く考えた総合企画書でご提案することにした。

8月13日企画書を提出。現状の問題点と解決策を企業コンセプト作り・ミニCIデザインで提案した。キャッチフレーズ マークロゴタイプ 事業推進のバックボーン「正」字マークと5か条の営業コンセプト 号外チラシ パネルデザイン展開 磨き丸太の新用途開発アイデア 専門業界向けPR媒体紹介 ホームページ改善企画等、具体的イメージスケッチ付きの内容が概ねご満足頂けた。

8月20日～9月25日 号外チラシ、展示パネルのデザイン制作・印刷を進行。全国各地の展示会へご出張が多い森本社長に出先でメール校正・確認を重ねて頂きながら一連の作業を終えた。

（おかげさまでパネルデザインは好評とのこと。）

10月18日菟田野の秋祭り、いなせな出で立ちで神輿を担ぐ森本社長の肩に、山林業の未来も託されている。GMSも大いに協力させて頂きたい。

森庄銘木HP <http://www.morisho-meiboku.co.jp>

関西産業活性協議会（KIAC）が発足

（特別顧問 成田欽史郎）



昨年の4月より、関西における産業支援型NPO法人7団体（750名）が『関西産業活性協議会』の設立に向けて協議を開始しました。この7団体は、過去4年間にわたり、近畿経済産業局の主催する『販路ナビゲート事業』に関わってきた団体で、折角のネットワークを、関西経済の活性化に活かしたいとの思いから、協議会設立に至ったものです。

昨年9月2日に設立総会を開催し、皆様も良くご存知の大槻眞一先生（元阪南大学長）に理事長をお引き受け頂くことになりました。大槻先生は、工業技術院大阪工業技術試験所に入所され、要職を歴任された後、各地の工業技術試験所の責任者を経て、



平成9年から阪南大学の教授・学長を勤められ、淀屋橋に中小企業支援センターを設けるなど、中小・ベンチャー企業育成に尽くされました。関西地域の公的機関の審査委員長や評価委員長も歴任されており、この分野での人的ネットワークの広い方です。K I A CのみならずG M S他各団体の活動の面でも知恵をお借りする機会が多いのではないかと思います。お陰さまで、新たにT A M A協（首都圏産業活性化協会）大阪市国際経済振興センター、神戸市産業振興センターなどからお話を頂戴し、包括的な契約の話合いを進めております。

この様なより大きなプラットフォームでの情報発信で、G M Sの会員の皆様にも様々な活動の場が広がればとの思いで取り組んでおります。又、けいはんな新事業研究交流会も、各方面から注目され始めており、きっちりとした位置づけが確立できるまで引き続き手弁当での取り組みを継続するつもりですが、趣旨ご理解を頂き、G M S理事・会員の中で、この事業に関心のある方は、是非お手伝いを頂きたいと思っております。

2010年は寅年で、若葉が芽吹くとか、隠れた火のエネルギーを意味すると言われています。

2009年の大きな変革を経て、実り多き年となるよう期待したいと思います。

K I A Cの団体会員はつぎのとおりです。

NPO 法人商縁プラザ・NPO 法人チャレンジ企業支援隊・近畿産業技術クラスター協同組合・NPO 法人XOクラスター・NPO 法人産業人OBネット・G-MAC L.L.P・NPO 法人テクノメイトコープ・NPO 法人京都シニアベンチャークラブ連合会

追手門学院大学「キャリアデザイン論」開講

（理事 中尾都史子）

平成17年よりスタートした関西ビジネスインフォメーション株式会社との共同事業、追手門学院大学



「キャリアデザイン論」は、平成21年9月より開講しました。追手門学院大学経済学部・経営学

部・国際教養学部の3学部1年生15クラス、約1,200名が対象です。講師陣は、渋谷武志・島田幸七・中尾都史子・橋本 俊作・山崎聡子（50音順、敬称略）の5名が担当しています。

目的：一人ひとりが自己を見つめ、社会の現実を知り、自らの人生を設計する大切さを学ぶ。

実施期間：9月末～1月末 計14回中12回を担当「正しい自分探し、間違わない進路選択、その実現に向け充実した学生生活の送り方を考える学習の場にする。毎回、ワークを通じてプレゼンテーション能力を身に付け、他人の意見を聞き取り自分の意見を伝え、相互理解とお互いの意見を高め合う講義にする」事を各講師が認識し、大学側との「意見交換会」を通し、毎年修正を加えつつ講義を行なってきました。初年度の教え子が4年生になり、一つの節目を迎えたと言えます。

平成22年度大学卒業予定者の内定率は10月1日現在62.5%と昨年より7.4ポイント下回る（私大文系では58.7%で、最大下落幅10.3ポイント）という大変厳しい雇用状況に当たっています。

「キャリアデザイン論」が、5年目を迎えることが出来るかどうかは未確定ですが、次年度も担当する事になれば、さらにバージョンアップを目指し、次代を担う若者のキャリア意識の形成に尽力したいと考えています。

「なら県民電子会議室」コーディネーターとしての活動 （副理事長 馬場英彦）

平成18年に、奈良県広報公聴課より委託事業として、インターネットを活用して、県民同士が県政について幅広く議論できる場を提供することにより、県民の県政に関する理解と関心を高めることを目的として「なら県民電子会議室」が発足しました。この「なら県民電子会議室」は半期ごとに4つのテーマを掲げ、ひろく一般の読者からの投稿を募集しています。会議室のテーマとして、昨年4月から「ものづくり産



業を考える会議室」のコーディネーターを担当し、前期は投稿数425件に上る多数のご意見を頂き、開設以来の新記録となった。中小企業様を中心に「ものづくり産

業」の重要性が認識できたが、まだまだ論議が出尽くしておらず、後期も継続して開設させて頂きます。

前期の論点を整理して3つのテーマにそれぞれ3つの視点からご意見、ご提言をお願いしています。

1. 人材の育成・・・ 個人の育成 チーム・組織の育成 起業家を生み出す
2. 事業や技術・・・ 地域資源(農・林・工・商業)を活かす 製造・開発プロセスを追求 未来への奈良産業
3. 情報・ソフト・ノウハウ・・・ 販売ノウハウ 伝統文化・デザインを活かす 奈良発のブランドづくり

H 2 1 年度障害者働きがい支援事業に参画して

(理事 南部英治)

昨年、奈良県くらし創造部・協働推進課からの紹介を受け、「NPO 法人 奈良県社会就労事業振興センター」の依頼で、障害者のための就労支援事業として、「工賃倍増5か年計画」のコンサルティング業務を行った。この取り組みも2年目に入り、前年同様奈良県の対象福祉施設より、10事業所に応募いただき、9月から具体的支援を行っている。

20年度のコンサルティングは施設側は勿論、GMSも施設への支援が初めてであったこともあり具体的な打ち合わせができるまでに時間がかかった。この経験を踏まえ、21年度は6月に奈良県福祉部障害福祉課の主催で、支援事業報告会が開催され、事業所の取り組み状況、コンサルを受けた感想、事業所改善の目標、達成への自信等について各事業所よりプレゼンを頂いた。又、21年度に支援を受ける10事業所に対して振興センターが事前打ち合わせを実施、GMS支援チームも年間計画を提示したこと等が功を奏し支援事業は順調に進んでいる。



今年度の支援メンバーは昨年の馬場、南部と新規に今西会員を加えた3名でチームを組み、ものづくり・商品開発・マーケティング面での課題分析を行い、平成

24年までの事業計画を作り上げることで事業所の課題の絞り込みと関係者の意識改革を目指している。計画が出来た事業所については5Sの取り組み、会計システムの導入、新商品の企画などのスキル支援やそ

れぞれの事業所独自の具体的な取り組みを開始しており、今年3月までに具体的な成果が出せるよう推進中です。

「奈良県とNPOとの協働事業提案」採択される

(副理事長 馬場英彦)

この事業提案の目的は、「ボランティア・NPO活動推進基金」を活用し、県民に一層効果的で質の高いサービスを提供できる協働事業の提案をNPOから公募するものです。県とNPOが協働で事業実施することにより、県における地域課題の解決とボランティア・NPO活動の活性化を図り、豊かな地域社会の形成を目指します。

今回は14事業の応募があり、11月7日の公開プレゼンテーションにおいて発表を行い、厳正な審査の結果、6事業が採択された。GMSでは、奈良県くらし創造部・協働推進課様との協働で



「NPO 法人設立の為のマネジメントセミナー及び相談会の開催」を提案した。

提案の背景は、奈良県にはNPO法人が380団体もあるが、活発な成果を挙げる法人が少なく又、担当部門も法人申請の対応に多忙を極め、活動成果に結びつく支援が十分出来ていない状況に対して、GMSがお役に立ちたいと考えました。

具体的な提案は、今後NPO法人申請を検討中のボランティア団体、企業OB,さらにソーシャルビジネス(社会起業家)を目指す学生を対象として、NPO活動マネジメントのノウハウ(活動理念、具体的活動のマネジメント、実際の事例等)をセミナー形式で、共に学ぶ内容になっています。

採択されたこの事業については、「くらし創造部・協働推進課様」と、2週間に1回の検討会を開き、22年度より具体的な活動に入れるよう準備を進めて行きます。

第15回GMS経営勉強交流塾開催

(理事 モノづくり副部長 阪本徳男)

第15回GMS経営勉強交流塾(「松下幸之助と中国、中国最新事情」に学ぶ)を12月9日に27名の参加を得て開催した。

GMS経営勉強交流塾の目的は中小企業の経営者・幹部社員の方々が、互いに悩みや工夫を紹介し

あい情報を交流することにより、お互いにヒントや元気が得られることを狙う塾活動です。

冒頭、成田特別顧問のご挨拶があり、参加へのお礼とトップはビジョンづくりとムードメーカーでなければならないとのお話があった。

引き続き、中村モノづくり部会長より、会議進行説明等がなされた。

「松下幸之助と中国」では、本社社史室のご協力によるDVD「松下創業者による中国事業の創始：創業者の心は中国の工業化に貢献」を視聴し、松下幸之助の中国事業開発の考え方、即ち先見力・国際貢献・グローバル意識・企業の成否は人等について阪本よりポイント



を説明。引き続き「中国最新事情と中国事業の進め方」では、阪本が7年間の中国赴任経験と、現在の中国政府機関への協力活動、企業の顧問活動の経験をもとに、中国の具体的な最新情報、中国の電子情報産業の特徴、中国ビジネス進出留意点と中国ビジネス開発の基本と人脈構築、情報入手ノウハウ等について講演させていただきました。

その後、「質疑応答&意見交換」では質問票に記入頂いた内容をもとに回答と意見交換を実施しました。本日は得るものがありましたか？との「アンケート」に対しては、次の様な回答が寄せられた。

総回答数が15で■多くあった(11)■少しあった(4)とほぼ満足して頂きました。

参加者の感想としては、中国ビジネス進出留意点、「百聞は一見に如かず」、「人脈なくしてビジネス開発・技術開発のスタートは困難」を認識した。意見交換をより良く反映するための少人数での開催を希望、製造業の話が多く弊社は流通が得意な分野で多少のギャップあり、業種・業態別にまとめるのも一考を等、次回に反映したいと思います。

支援要請としては海外マネジメント研修、モノづくり研修などの講師依頼があり、今後具体的に詰めて行きたいと思います。

2部の懇親交流会では山崎理事長のご挨拶の後、勉強交流会では話のできなかった各社の悩み、新ビジネスなどについて参加企業様間、或いは参加企業様とGMS参加者と交流を行いました。

平成21(2009)年GMSの活動



1月～「デジカメ体験講座」開催

平成21(2009)年GMSの活動

1月 「GMS新春講演・交流会」開催

講師:大成学院大教授 釣島平三氏

3月 「第12回モノづくり勉強交流塾」開催、

4月～「H21上期なら県民電子会議室」ものづくり産業を考える会議室のコーディネーター受託

4月 「GMS活動紹介展」開催(奈良県立図書情報館)展示:13日間

5月～ 追手門学院大学「キャリア実践塾」開講

5月 第7回総会開催(21日)

6月 「第13回GMS経営勉強交流塾」開催

7月 「第3回GMSセミナー」開催:

講師:西原広徳氏(弁理士、会員)

8月～『けいはんな学研都市精華地区まちづくり協議会』事務局を引受け

8月～ 中小企業基盤整備機構の支援プロジェクト選定企業支援(森庄銘木様)

9月 関西産業活性協議会(KIAC)が設立され、GMSも発起団体となる。

9月 「第14回GMS経営勉強交流塾」開催

9月～「新現役チャレンジ支援事業」を応援し、マッチングとセミナー開催(けいはんな新事業研究交流会・KIACと共催)

9月～ 追手門学院大学「キャリアデザイン論」開講

10月～「障害者働きがい支援事業」をNPO法人 奈良県社会就労事業振興センターの依頼で、昨年度に引き続き応援

11月 「奈良県とNPOとの協働事業提案」に応募し採択される。(22年度実施)

12月 第15回GMS経営勉強交流塾」開催